

【展示対象人物】

山梨県の発展に貢献した人物や、山梨県出身で国内外で活躍した人物を紹介します。

- 概ね明治時代から戦前までに活躍した山梨ゆかりの先人を対象とします。
- 活躍した分野は特に限定せず、農林業、政治・経済、福祉・医療、外交、郷土研究、教育、美術・文芸など幅広い分野から人物を選定します。
- 存命中の人物は扱わず、客観的に歴史的評価がなされた人物から選定します。
- 本県出身者に限らず、本県の発展に貢献した県外出身の人物も対象とします。
- 県外で活躍した本県出身者も対象とします。
- 先人を紹介するに当たって十分な資料等がある人物とします。

【人物紹介の手法】

- 山梨の先人達について子どもやお年寄りをはじめ、誰にでも分かりやすい展示内容とし、紹介人物等の更新を行っていきます。
- 山梨の先人達が残した言葉、あるいは先人達に関する言葉など、未来の山梨に残すべき言葉を中心に紹介することで、訪れた人々にこれからの生きるためのヒント・指針を持ち帰っていただける展示とします。

〈展示の対象となる代表的な人物例〉

浅川巧 (1891 - 1931 北杜市 朝鮮陶磁器研究、林業ほか) 残すべき言葉：「山に木を植えることは自然を美化するつもりで植えて居るのだ」 浅川巧は幼い頃から自然をこよなく愛し、農林業の紹介に一生を捧げました。朝鮮に渡ってからも、はげ山の植林活動に従事し、朝鮮の緑化に大きく貢献をしました。	雨宮敬次郎 (1846 - 1911 甲州市 鉄道事業ほか) 残すべき言葉：「物事は、先の先と後の先とがある」 先の先を取ると、いちいち自分で試験を試してみなければならない。ところが後の先を取ると、他人がすでに実見したものをそのまま踏襲することが出来る。(だから)後の先の方が利益がある、という意味の言葉です。
小川正子 (1902-1943 笛吹市 ハンセン病治療) 残すべき言葉：「次の時代にはもう二度と、(らい病で)こうして泣く人達の無い国を善い正解を皆が持つ事のできる為に、この辛い仕事を歩いて歩くのが私の小さい使命であったのだ…」 小川正子は伝染病である癩病(らい ハンセン病)患者の救済に尽力しました。ただ、そのためには、十分な医学知識が広まっていなかった当時あって、大きな困難を伴っていました。この言葉はそうした彼女の心の葛藤から出たものです。	根津嘉一郎 (1860 - 1940 山梨市 鉄道事業、電力事業ほか) 残すべき言葉：「世の中で独立独歩ほど尊いものはない。人の世話をするとともに人の世話にならないと云ふ心懸けが大事である」 数多くの会社の経営立て直しに関わった根津嘉一郎。彼の経営理念は「独立独歩」の精神である。そのことで信用が生まれ、事業のための資金が集まるという考えで、全国有数の事業家となりました。

※各人物の活動分野については便宜的に付したものです。実際には同一人物が多分野にわたって活動している場合もあります。

【スケジュール】

	平成 25 年度	平成 26 年度	
展示	展示設計	展示制作	平成 27 年 3 月 開館予定
運営	施設運営計画	施設運営準備	
建築	改修設計 平成 24 年 6 月～平成 25 年 7 月	改修工事 平成 25 年 12 月～平成 27 年 3 月 (予定)	

※展示を設計するに当たり、山梨県立博物館で開催される企画展「やまなしの近代人物と鉄道」(平成25年7月20日(土)～9月2日(月) 予定)の内容も反映します。



山梨県庁舎別館展示施設整備 基本計画概要版

県庁舎別館を、郷土への愛着とにぎわい創出の施設として整備します

山梨県では、県指定有形文化財である山梨県庁舎別館(以下「別館」という)について、県民や観光客等に積極的に公開し活用を図っていくとともに、中心市街地の活性化やにぎわいの創出に配慮し、利用者に身近で利用しやすい県庁とするため、別館の改修事業に合わせ、館内に展示施設を整備することとしました。

【別館展示施設の設置目的】

別館は、山梨県のあゆみを象徴する貴重な文化遺産であるとともに、山梨県の発展を支えてきた幾多の先人達の思いが詰まった建物でもあります。先人達が山梨県を舞台にどのような活動をしたのか、時代を超える記憶が、この建物には刻まれています。

こうした別館の特徴を活かし、県内外の多くの人に山梨県の魅力を知ってもらうために、別館内に展示施設を整備し、公開活用します。

- ・県指定有形文化財である別館の文化財的価値を活かします
- ・県政の歴史とともに、本県発展の礎を築いた先人の功績を情報発信します
- ・県内各地の博物館や周辺施設などとの周遊性を確保します
- ・多くの人々が訪れる一般開放施設としてにぎわいの創出を目指します

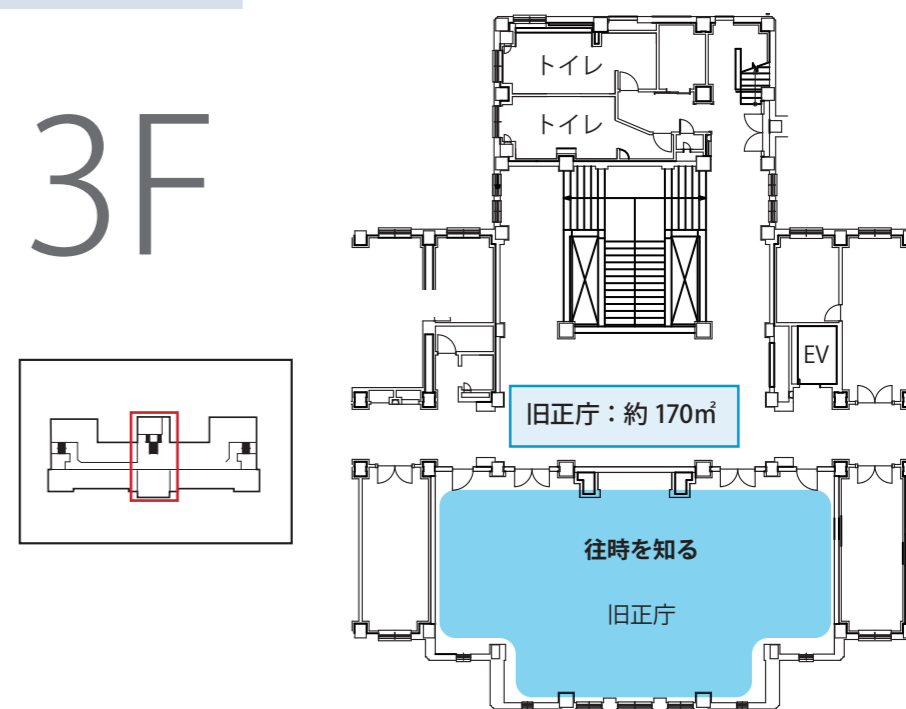
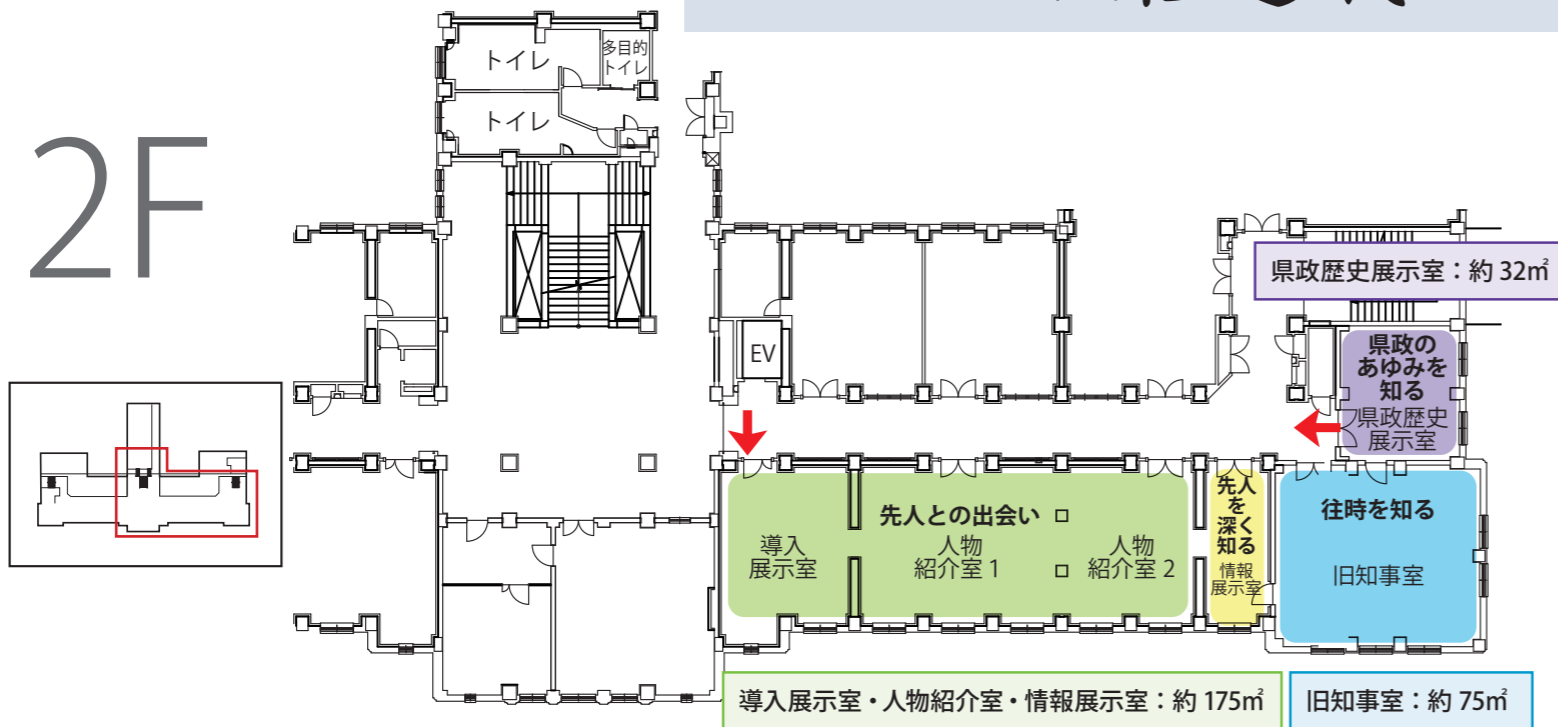
【展示整備コンセプト】

やまなしを「再認識・発掘・発見」する

- 1 知っている山梨を再認識**
山梨の自然や風土を改めて捉え、この土地で生まれた人々を育んだ環境について学び、さらに先人達の活躍を知ること、山梨の良さを再認識します。
- 2 知らなかった山梨を発掘**
多彩な分野にわたる多くの人材が日本の経済・産業・文化の発展に寄与してきました。その人物がどのような考えで物事にぶつかっていったのか、人物の言葉から発掘していきます。
- 3 未来の山梨を発見・創造**
様々な業績を残した人々の言葉や、これまでの県政の歴史をふりかえることから、未来に向けて糧となる言葉を発見し、未来のやまなしを創造するきっかけとします。

【施設の概要】

【施設名称】 山梨近代人物館 (仮称)



先人との出会い

未来の山梨を切り拓くヒントが詰まった山梨ゆかりの先人達の活動を紹介します。

先人を深く知る

各人物のより詳しい情報を調べることができます。人物ゆかりの地も紹介し、まち歩きへとご案内します。

往時を知る

修復された旧知事室・旧正庁の姿から、山梨の歴史を肌を感じ、先人達の作ってきた山梨のあゆみを辿ります。

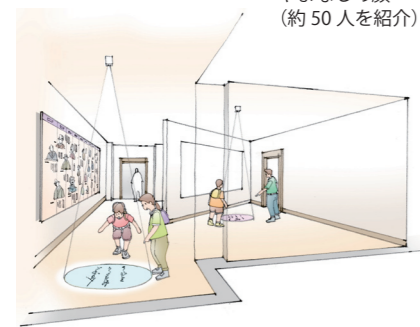
県政のあゆみを知る

県政の歴史を知ることで、山梨の未来に思いをはせます。

導入展示室



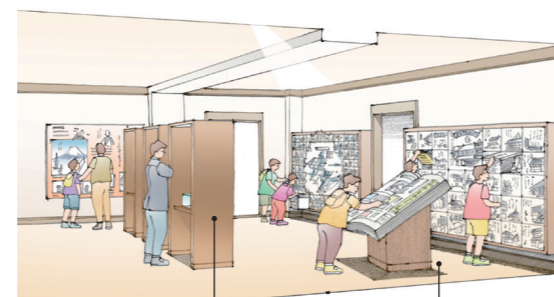
やまなしの顔
(約 50 人を紹介)



人物紹介室 1



人物紹介室 2



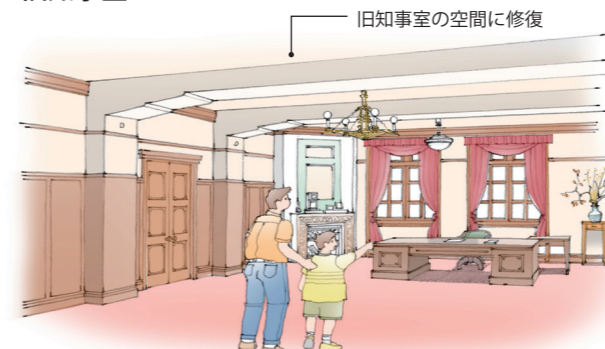
自然環境と向き合った
山梨の先人達

情報展示室

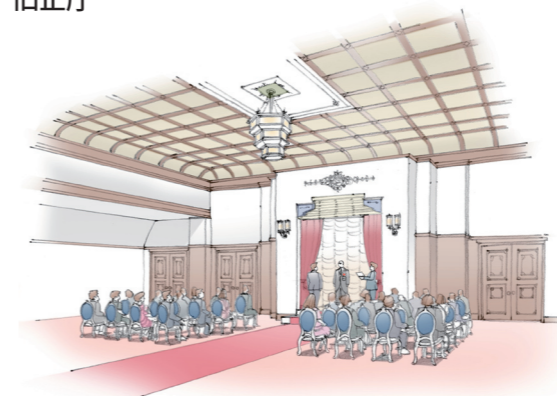


人物まち歩き検索装置
(人物紹介室で紹介できない
人物も紹介)

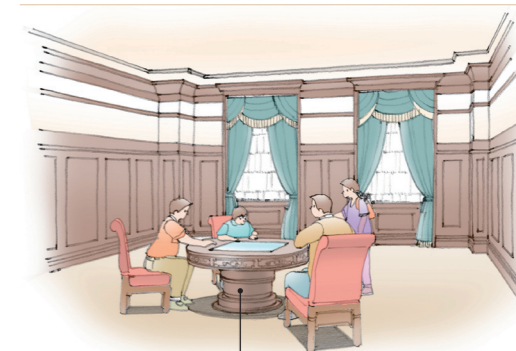
旧知事室



旧正庁



県政歴史展示室



開館時間 午前9時～午後5時
休館日 週1回又は月2回程度
(土、日、祝日は原則オープン)
観覧料 無料